



体育指導センターとは

昭和43年に開設した「県立体育センター」が、令和2年に名称を「県立スポーツセンター」と変え、県民の総合的なスポーツ推進拠点として新たに整備されました。この時、同じく再整備が行われていた県立総合教育センターに、県立総合教育センター体育指導センター指導研究課として研修指導班・授業研究班を置き、体育・保健体育の研修や授業研究、授業や運動部活動の相談を担当しています。

【主な業務内容】

● 教員研修

教職経験に応じた基本研修や教職としての専門性を高める研修など、体育・保健体育に関する各講座を企画・実施しています。

● 調査研究



体育・保健体育に関する研究や、児童・生徒の体力・運動能力調査など、体育・保健体育授業の改善に資する調査研究を行っています。現在は、令和4年度より「共に学び共に育つ体育授業の実現に向けた調査研究」に取り組んでいます。



過去の研究報告も閲覧できます！

● 授業づくりに役立つ資料等の作成・提供



体育・保健体育の授業づくりに役立つ指導資料を作成し、ホームページに掲載しています。多くの学校で、活用していただきたいと思えます。



★県立スポーツセンターはこちらへ★

Follow me!
スポーツセンター公式アカウント

Instagram
pref.kanagawa_sc
神奈川県立スポーツセンター

神奈川県立スポーツセンター

インスタ始めました!

神奈川県立スポーツセンター
スポーツ活動支援課 スポーツ相談・情報班
☎ 0466-82-6395

● 体育・保健体育に関する総合コンサルティング

総合教育センターが主催するカリキュラム・コンサルタント事業の一環で、おもに体育・保健体育に関する授業研究会や教員研修会に講師を派遣し、体育・保健体育指導に係る様々な課題に対して、その課題解決に向けて支援するとともに、教員の指導力の向上を図ります。

↓↓【申込みフォーム】↓↓

<https://edu-ctr.pen-kanagawa.ed.jp/ssl/CCForm>

サン マル サン

3033運動
あなたのからだ



教育図書室 新着図書のお知らせ

総合教育センターでは、図書室で購入する図書を年2回の図書選定会議で決めています。図書選定会議では、所内各課からのリクエストに加え、その時々教育に関するテーマを特集として選定しています。今年度第1回目のテーマは「学校で取り組むポジティブ行動支援」として、6冊の図書を選びました。

ポジティブ行動支援は、子どもたちの適応行動を支援し、ポジティブな行動を増やすことで問題行動を減らすアプローチで、学校全体や個別支援でも取り組みます。

子どもと先生の笑顔が輝く学級・学校づくりにぜひお役立てください。

◆テーマ「学校で取り組むポジティブ行動支援」の図書

書名等	著作者等	登録番号	請求記号
PBIS実践マニュアル&実践集 ポジティブな行動が増え、問題行動が激減！ 学校・学級が変わる！はじめてのポジティブ行動支援	栗原慎二	1002056586	374-K
子どもと先生の笑顔が輝くアプローチ	松山康成	1002056545	375.4-M
学校全体で取り組むポジティブ行動支援スタートガイド	若林上総ほか	1002056537	375.4-W
高校ではじめるスクールワイドPBS 階層的な校内支援体制整備を目指して	若林上総ほか	1002056560	375.4-W
応用行動分析学から学ぶ子ども観察力&支援力養成ガイド 子どもの行動から考えるポジティブ行動支援（改訂版）	平澤紀子	1002056552	378-H
保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック 子どもの行動を「ありのまま観る」ために	三田地真実ほか	1002056578	378-M



テーマ図書を含む新着コーナー

◆新着購入図書リストをご覧になるには…

*「神奈川県立総合教育センター教育図書室図書検索システム」のトップページの「ブックリスト」に登録しています。



→「202407新着購入図書リスト（2024年7月）」をクリックすると、リスト図書の情報が請求記号順に表示されます。

→各図書の書名等（下線が引かれているところ）をクリックすると、「書誌詳細」が表示されます。

図書検索システム

→また、「メニュー」の「ブックリスト」ボタンをクリックすると「ブックリスト一覧」が表示され、この一覧からも「202407新着購入図書リスト（2024年7月）」を選択できます。



（これはPC上の画面です）

総教C「連続センターだより小説」 情熱あふれる教師たちの物語 亀に翼 第3話 ～リフレーミングで見方が変わる～

前回、冰山モデルに出会ったグッタ先生



「ムカつく」「ウザい」
「うるさい」「知らねえ」



質問しても、いわゆる‘暴言’で返す子どもがいるんだけど、どうしてだろう…

①

例えばグッタ先生が暴言と考えている言葉をリフレーミングすると

「ムカつく」→「くやしい」とか…
「ウザイ」→「もどかしい」とか…
「うるさい」→「焦らせないで」とか…
「知らねえ」→「わからない」とか…

私には、うまく自分の気持ちを伝える術がない子ども、誰かに頼るのが苦手な子どもの声に聞こえるわ。表面的な言葉に捉われずに、こんなふうに捉え直した方が支援は広がるわよね。

③

そんな時こそ、リフレーミングよ！例えば「ムカつく」「うるさい」が口癖の子どもがいたとしましょう。その姿を‘暴言’‘態度が悪い’といったマイナスのフレームで捉えるのではなく、別のフレームで捉え直すの。 寅子先生

②

♪エクササイズ♪

状況のリフレーミング

半分しか入っていない
⇒半分も入っている



パリオリンピックでは名言も生まれたわね。
1%しか可能性がない
⇒1%も可能性があるなら！



④

リフレーミング
専し♡



リフレーミングすれば、支援の可能性は広がるし、柔軟な対応が考えられるんだな☆

⑤

…つづく